

われ以外みなわが師

吉川 英治



大衆文学の第一人者として、昭和三十五年文化勲章を受章した吉川英治は、

明治二十五年神奈川に生まれました。幼時に家運がかたむき、大酒飲みの父のため母が苦勞します。十二歳から小僧・印刷工・給仕・店員・土工・ドック工など辛い仕事のなかで、夜間の学校に通って勉強、読書に励みました。

初めての小説が講談倶楽部という雑誌に当選、掲載されたのが二十三歳の時です。三十歳では、応募した小説や童話が一度に三つの雑誌に当選、合計七百余円の賞金を得て、これが母の葬儀の費用となりました。

英治の本名は英次（ひでつぐ）で『剣難女難』の作品を掲載される際に出版社

が「英治」と誤植してしまったのを本人が気に入り、以後ペンネームにします。英治の名声が確立したのは、毎日新聞に掲載された『鳴門秘帖』なるとひちようや少年倶楽部の『神州天馬俠』しんしゅうてんまきようで、三十歳代の後半です。

昭和十年から朝日新聞連載の『宮本武蔵』むさしは、なんといっても英治の代表作。

ヒロインのお通つうは二度目の妻の文子、武蔵の人間形成に大きな影響を与える沢庵たくあんおしょう やすおかまさひろ和尚は安岡正篤がモデルといわれます。『宮本武蔵』は新聞小説史上かつてない人気を得て、映画や演劇となり、また徳川夢声むせいのラジオ小説として国民のすべての階層に親しまれました。

戦後三年間、ペンをとらず、疎開先そかいさきであつた西多摩吉野村で謹慎生活を送った

のも、英治らしい身の処しよし方でした。しかし、親友の菊池寛かんの求めで再び筆を

とって『高山右近』『大岡越前』で本格的に復活します。その後、敗れた平家と

日本を重ねた『新・平家物語』の連載を開始し七年にもおよぶ大作となり、第一

回菊池寛賞を受賞。『新・平家物語』終了後は『私本太平記』しほんたいへいき『新・水滸伝』すいこでんを

連載します。『私本太平記』は、従来逆賊といわれてきた足利尊氏あしかがたかうじの見方を改めて描く大作で、英治は幅広い読者層を獲得し「国民文学作家」といわれます。

文化勲章を受章したころから肺ガンのきざしがあり、病勢は悪化していきました。人情に厚く、心やさしく、不正や邪悪じやあくを憎み、正義を愛する人でした。その座右銘ざゆうめいが「我以外皆我師われいがいみなわがし」であります。

※吉川 英治（よしかわ えいじ・昭和三十七年〈一九六二年〉没・七十一歳）

◎ 文化勲章を受章した吉川英治の座右銘が「我以外皆我師」には、謙虚さを感じました。

◎ 本名の英次から誤植で英治になったのを気に入り、ペンネームにしていたとは、おもしろく感じました。

（M生）